

新潟県教育長賞

繋いでいくバトン

長岡市立青葉台中学校

三年 江口 りり子

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待を込め、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

私の使用している教科書に書かれている言葉です。

私がこの作文を書くころと思ったきっかけは、この教科書の言葉でした。毎日鞆が沢山の教科書で重かった義務教育九年間の教科書代を両親が全て払っていたら、教育費としてどれだけ大きな負担になっていただろうと考えると、この制度に感謝しかありません。

私の母も中学時代に税に関する作文を書いたそうです。「そんな前から中学生は税の作文を書いていたの？」と言う私に、「中学生でも税金で支えられていることを知ることが大切だからこそ、今も税の作文は続いているんじゃないの。」と母に言われました。

そして、私と母のやりとりを聞いていた父が一枚の紙を見せてくれました。今年度の「納税決定通知書」でした。給与収入から給与所得、所得控除、市・県民税と、普段中学生が使わない言葉が並んでいました。私は、自分には関係がない

と心の中では思いながらも、父の説明を聞きながら、私と父が使う言葉に大きな違いがあることに気がつきました。「税金を取られている」と言う私に対して、父は「税金を納めている」という言葉を使っていたのです。

私にとっての身近な税金は消費税です。自分が欲しいものを買いたいのに、税金が取られる。まだ働いていないし、貯めたお小遣いから余計に支払うという目先の現実だけで、「税金を取られている」という悪いイメージを持っていました。

しかし、父は自分が納める税金から娘の教科書が無償となり、通う学校の修繕や備品購入に使用されていることを知っていました。自分が納めた税金が『別のカタチ』で自分や家族、他の人が助けられているという、『税』に対する知識の違いが、私と父の言葉の違いになっていたのでした。

父は当然のことですが、しっかり納税しています。だからこそ、父は私に堂々と学校へ通い、多くのことを学びなさい、と私に言いました。

来年高考生になると、私の教科書からは、あの言葉は消えているはずですが。

しかし、今度は授業料無償化の対象になります。これもまさしく、私が税を身近に実感できる制度です。税金を納めてくれる人がいるからこそ、今の私、これからの私がいる。今の私は、あとわずかな義務教育期間の中で、教科書を大切に使うって受験勉強をしようと思っています。

そしていつか、私が納税者となり、支える側になった時、私がしてもらったように、今度は未来の子供達へバトンを繋いでいきたいです。この先ずっと、税金によって多くの人の幸せが繋がることを願っています。

新潟県納税貯蓄組合総連合会 優秀賞

社会への恩返し

長岡市立東北中学校

三年 遠山 いろは

「税金をできるだけ払いたくない。」

一般的な人は消費税だけでなく住民税や所得税などたくさん税を納めている中でそう感じることは不思議ではない。しかし私はそういう人の意見を聞くと今まで幸せだったのだろうと思うのである。なぜなら税金は社会の弱者や困難の陥っている人を救う目的に集められるお金であるからである。税金に恩恵を受けた経験のある私にとって税金は払いたくないと思えるものなのである。

生まれて一ヶ月。八千代医療センターに、つれられた。私の体に異変があった。心臓の雑音を医師から指摘されたのである。精密検査を終え、自然治療が難しいと判断され手術を受けさせてもらった。多額となった治療費は全て高額療養費制度によって税金に負担してもらえた。今となっては日常生活に支障なく、楽しい毎日を送ることができている。

母によく言われた言葉がある。

「大丈夫。なんとたっているのは心臓さんの手術がんばれたんだから。ママでも怖い手術をいろはは乗り越えたんだよ。だ

からいろははなんだってできるんだよ。」

幼いころからよく言われた言葉だった。不安や恐怖に直面した時、心臓の病気を克服したという経験が私自身に自信を与えてくれたのだ。そして先日行われた所属している器械体操部の大会では緊張や不安で押し潰されそうな私を「できる」という気持ちに切り替えたのはやはり手術の経験だった。大会では優勝を収め、1ステップ上へと進むことができたのだ。つまり税金は私を助けただけでなく今も尚成長する源となっているのだ。

私ははやく大人になって多くの税金が払えるようになりたい。私が一人税金を払うようになったくらいでは変わらないかもしれない。しかし税金を払うことによって私と同じような大きな病気を抱えた子供や、治してあげたいけどお金に困る親の力になることはできないのではないだろうか。それは、困難な状況に直面している誰かに貢献できるということではないだろうか。

税金とは何か。私は税金はお金を通じて国民同士が助け合っているものだと思う。それぞれのお金が、自分が払ったお金が誰かのためになる。国民の誰かに手をさしのべることが税金を通してできるのである。国民にとって過ごしやすい環境をつくるのが税金を通してできるのである。つまり、税金を払うということは社会に貢献できるということである。

だから私は大人になって税を納め社会に恩返しをしたいのである。

新潟県納税貯蓄組合総連合会 優秀賞

巡り巡る税金

新潟大学附属長岡中学校

三年 吉原 芳歌

ページュの小さな機械が祖父の耳に装着されていた。

「耳が悪いから、補聴器を付けたんだよ。」

最近の祖父は耳が遠くなっていた。話しかけても気づいてもらえないことも少なくはない。そんな祖父が音を聞きとりやすくなると聞いてなんだか嬉しさが込み上げてきた。一方で、補聴器はとも高額だとテレビで聞いたことを思い出した。本当にそうだとしたら、年金暮らしで生活することが一杯な祖父にそんなお金はないはずだ。尋ねてみると、「二十万円」という驚くような金額だった。祖父が補聴器を宝物のように扱う様子はイキイキしていたが、やはり負担が大きいのではないかと不安になった。

「税金の補助があるから全額払っているわけじゃないと思うよ。」

家に帰って祖父の補聴器の話をしてみると、母が教えてくれた。税金と聞くと、道路の整備や公共施設、教育など皆が必要とされているものに使われるイメージがある。補聴器など一部の対象者のための税制度もあるのだろうか。調べたところ、診療情報を提供することで医療費控除を受けることが

出来る制度が二〇一八年から始まったらしい。また、私の町では七月一日に補聴器の助成事業が始まったということが分かった。遠い存在だった税金がだんだん身近に感じられ、気づけば税金に興味を持つようになっていた。

そんな中、気づいたことがある。それは、身近な税制度が近年になって、様々な県や市で導入されているケースが増えていることだ。年々、より人々が税金を利用しやすいような制度へと変化していることで、経済的に困難な人でもより過ごしやすい環境に近づいているのではないだろうか。私は日々よりよいものへと変わり続ける税制度に驚いた。

私は普段、消費税の他に税金で社会貢献を出来ていない。まだ学生で大人に比べれば、納めている量は少ないように思う。確かに、私は微力ではない。時々、税金で助けられてばかりいる自分が後ろめたいと思うことがある。しかし、無力ではないはずだ。今は税金に助けられてもっているが、大人になったら社会の一員として税金を納めていきたいと思う。今度は、税金を納めることでもっと誰かを助けられる存在になりたい。

「情けは人のためならず」という言葉には続きがある。それは「巡り巡って己がため」だ。この言葉を母から教わり、今でも大切にしている。人に親切にしたことは、巡っていつかは自分のためになるという意味だ。私はこれからの社会が、もっと身近な人に寄り添えるものになってほしい。皆が経済的な格差関係なく、安心して生活出来たらいいと思う。そのために税金について一人一人が向き合い続け、助け合うことが大切だ。誰かを助けたなら、いつか自分も助けてもらえるのだから。

これからの税金は私達が担っていく。

長岡税務署長賞

隠れたヒーロー

長岡市立旭岡中学校

三年 藤井 優羽

「新型コロナウイルス感染拡大防止のため―」この言葉で私の中学校生活の青春は数えきれないほど奪われた。一生の思い出になるはずだった修学旅行、大好きな先輩を送り出す卒業式、全校が一つになる運動会。コロナウイルスを何度も憎んだ。

ある日、新型コロナウイルスワクチンができたことを知った。これでコロナは終息に近づくかもしれないと思い、たくさん調べることにした。すると、まずは高齢者からワクチン接種を開始することが分かった。そこで私は疑問を抱いた。「ワクチン接種をするとなると、高額な費用を負担することになって、高齢者の中にはお金がなくて接種することができない人がでてくるのではないか」と。しかし、それは国が負担、つまり税金がまかなってくれるため無料で受けられると知り、とても驚いた。私は税金と聞くと、消費税しか思いつかないくらい、税金について関心がなかった。だからもちろん税金がど

のように使われているのかも知らなかった。このワクチン接種をきっかけに、税金について調べてみると、私達学生の教科書代や誰もが救急車をどんときでも呼ぶことができるのは税金のおかげだと知ることができた。税金は、私達の当たり前を成り立たせるために使われていた。その時私の頭には「空気」という言葉が浮かんだ。どちらも意識を向ければ気がつく存在であるが、普段意識することは無い。そして、当たり前すぎて、失うことを想像できないけれど、もし失ったら今の暮らしができなくなるくらい私達を支えてくれている。「積土成山」「積水成淵」これらの四字熟語は、小さな積み重ねが大きな力になるという意味をもっている。税金は、国民一人一人の小さな力の積み重ねが、ワクチン接種の費用、学生の教科書代や授業料、そして救急車の出勤などの大きな力になっている。そのため、この言葉がぴったりだと思う。小さな積み重ねがあつて初めて大きな力になるから、今は税金を納めてくれてる大人への感謝の気持ちを持ち、私が大人になったときには、その後の日本をつくりあげる小学生や中学生のためにも税金を納めて恩返しをしたい。

コロナウイルスが終息したとき、ヒーローとして話されるのはワクチンだろう。しかし、そのワクチンを貧富の差については一切関係なく全員が打つことができるのは、税金のおかげだ。ワクチンももちろんすごいけれど、そこに隠れているもう一つのヒーローにも私は感謝をしたい。

長岡税務署長賞

幸せは税金で買える

長岡市立越路中学校

三年 青柳 和奏

先日、父と税金の話をした。

「お父さんなんて給料の中から10万円も引かれているんですよ。本当に大変だよ。」

私は予想以上の金額に驚いた。聞くと、所得税の他にも様々な税金が引かれているらしい。驚くと同時に、自分も将来、きつと税金に悩むのだろうと不安になった。

「少子高齢化が進みすぎだよ。なんで私たちが年金にあてられるお金を払わせられなきゃいけないのかな。嫌になるよ。」私は本当にそう思っていた。しかし、次の父のひと言が私の考えを180度逆転させたのだ。「じゃあお前は、自分のおばあちゃんたちが生活できなくてもいいんだな？」

私は今まで、「他人のために税金を払わされている」と、マイナスなイメージしかなかった。しかし、これを自分のため、家族のためと考えるとどうだろう。

たとえば、父の言葉のように、今払っている税金で、自分の祖母たちが暮らせている。私は中学校で十分な教育を受けられている。弟たちの学校の改装工事が行えた。兄がいつも

綺麗な体育館で筋トレできている。父も母も、整備された道路を使って、十分な医療も受けられている。そう考えると、税金のおかげで生活が支えられていると実感できた。もしも税金がなかったら、自分も自分の家族も、今頃大変な目に合っているだろう。

しかし、それでも大人になった時に、税金の負担額が大きすぎると不満を持つだろう。今まで教育を受けた分と家族の生活を支えてくれた分を足しても、自分が一生で払う金額の方が多いと感じるかもしれない。しかし、ここでマイナスなイメージは持ちたくない。大人になってから納める税金は、今度は自分の両親の年金に使われ、自分の子供が十分な教育を受けるために使われる。今までもそうやって、両親、祖母、曾祖父母：皆が税金を納めてきたから、今もこうして生活できている。過去も今も未来も、自分が納めた税金は、いつでも自分と身近な人の人生を守っているのだ。そう考えると、私たちが納めた税金は、利子もついて返ってきていたんだと思った。

税金を納めるのは自分のためであり家族のため。私はこの考えで税金は素晴らしいと感じることができた。税金は過去への恩返しであり、今への感謝であり、未来への貯金なのだ。今、税金を気持ち良く払っている人はどのくらいいるだろう。私は税金についてもっと学び、考えを深め、それを広めていかなければならない。

今まで「払わされていた」と感じていた税金。しかし、払うのならば、少しでもいい気分で払ってはどうかだろう。これからは、未来の自分と自分の家族の幸せを買うために納めていこうと思う。

新潟県長岡地域振興局長賞

税金のかたち

長岡市立山本中学校

三年 宮島 杏理

「私が倒れても救急車は呼ばないで」

この言葉は何年か前の祖父の月命日に言われた言葉だ。祖母のことだから祖父のもとに行きたい気持ちがあるのだろう。でも、救急車を呼ぶにはお金がかかる。もし税がなかったら、助かる命も助からず、家族側も何もできなくて心が痛いだろう。そこで、税があることでおこる良い影響を考えてみた。

一つ目は、冒頭にもあるように、救急車だ。救急車で助けられた命は、数えられないほどだろう。私の命もその内の一つである。記憶にはないが、小さかったころ、個人院でみてもらっていた時、心配なことが起きたのかお医者さんが救急車を呼んだという話を聞いた。話を聞いた時、自分のことだけですごく怖くなった。でも同時に、お医者さんはもちろん、税金を払っている人がいるからこそ助けられたのだと思い、たくさんの人に助けてもらえたんだなど、感謝の気持ちも感じた。

二つ目は、救急車に繋がるが、医療費だ。私は小さい頃、

救急車で運ばれるくらい体が弱く、体調もよく崩していたため、お医者さんにかかることが多かった。待合室で待っている時、大人の患者さんが会計している時、その患者さんの金額が聞こえた。かなり高くて驚いたが、他の大人の患者さんも同じくらい高額だった。私もかかる度こんなに払ってもらっているのかと思い、母に申し訳ないなと思っていった。でも、母が払っていた金額は五百三十円。次に受診した時も五百三十円。薬も無料。どうしてだろうと思っていたが、税金のおかげということを知った。大人の値段、通常の値段だったら、医者にかかれず、払えず、苦しい思いをするんだと思う。身をもって税金のありがたさを感じた。

三つ目は、学校だ。これは一番税金のおかげということを感じる。授業料も税金のため、みんながお金を払わなければ授業を受けられないし、そもそも学校自体が建設されなければ、教科書も税金でまかなわれている。世界には学校で勉強できない子がいるので、勉強できる環境であること、教材・教育費もまかなわれていることには、感謝してもしきれない。部活動も、学校のグラウンドや体育館、大会やコンサート会場なども税金によって作られている。

このように、生活の中で税金はなくてはならない存在だと感じた。自分の手で納めているのは消費税だけだけど、税金の使いみちが形として見えるのは安心するようない気がする。大人になったら自分の手で納める税はもっと増えるので、自分が納めた税金が誰かを助けられる、支えられるという事を忘れないようにしたい。

長岡市長賞

百年後も安心して暮らせる長岡を目指して

新潟大学附属長岡中学校

三年 小林 芙実香

世界的に有名なオーケストラとバレエの共演、プロの劇団の素晴らしいミュージカル、本格的なプログラミングに自然体験・・・。

これらは全て、私が学校の授業で実際に体験したことです。今まで私は、このようなことがほぼ全て税金で賄われている、ということは少しも考えたことがありませんでした。でも一つ一つの体験の密度が濃く、心の底から楽しかったです。

長岡市では『熱中！感動！夢づくり教育』というプロジェクトを行っています。実際に体験できるプログラムがいくつもあり、今までにたくさんの方の体験を通して「多様性」「平和」「防災」などを学んできました。どうしてこのような活動が実現できているのでしょうか。

実は、長岡市の今年度『新しい米百俵』による人材育成と未来への投資』では、約一九九億円の資金が使われています。これは市内小・中・高校生一人あたり約四九万円ということになります。中学校三年間、一人百万円以上の税金がかかっているのに、長岡市はさらに私たち若い世代に税金をかけて下さっています。どうして私たちにたくさん税金をかけて

いるのか疑問に思い、長岡の教育について調べることになりました。

今から百五十年前、長岡は戊辰戦争の戦火に呑み込まれていました。長岡藩は旧幕府軍側で戦いましたが敗れてしまい、食べ物にさえ困る状況でした。そんな時三根山藩から米が百俵届き、喜んだ武士たちでしたが、当時藩の「大参事」という役職であった小林虎三郎は、その米百俵を学校の設立に使ったのです。武士たちは反発しました。ですが虎三郎は、「国が興るのも、街が栄えるのも、ことごとく人にある。食えないからこそ、学校を建て、人物を養成するのだ。」と言い、長岡の未来のための選択をしました。

そして百五十年後の今、虎三郎の考え方、想いが長岡の人たちに代々受けつがれて、今では私たちの未来、長岡の未来への希望が、税金という形で私たちに託されているのです。私はこのことを知り、複雑な気持ちになりました。私は本当にこの期待に応えられるのか、少し不安です。

ですが私は、米百俵の精神が根付いた長岡が大好きです。そして大人になっても長岡市に住み続けたいと思っています。中学生の今、コロナ禍で大変なこともあります。夢を実現させるためにやるべきことたくさんあります。目標に向かってがんばることは、私にとって長岡市に恩返しをする一つの手段です。また、しっかりと税金を納めることで、これからも若者たちや小中学生がこれからもたくさんの方の体験で夢を描けると思っています。

教育の町・長岡は、みんなから集められた税金で成り立っています。私は、未来の子どもたちが夢を描ける長岡が楽しみです。

百年後も安心して暮らせる長岡を目指して。

長岡地区租税教育推進協議会 会長賞 優秀

ふるさと納税について考えたこと

長岡市立中之島中学校

三年 長尾 桃子

最近、「ふるさと納税」という言葉を耳にすることがある。私はどのような仕組みでどのような目的があるのか興味を持ったので調べてみた。

ふるさと納税は、生まれた故郷など応援したい自治体に寄付ができる制度だ。そして自分で税金の使い道の指定ができ、寄付をした自治体からお礼の品としてその地域の特産品がもらえる。自分の住む町に納めなければいけない税金の一部が減らされ、その分のお金が自分の選んだ町に入るしくみだという。これによって他の地域のまちづくりの支援ができ、各自治体にとっても特産品をアピールすることができるため、地域の活性化に役立つ制度である。

先日、社会の授業で過疎地域の税金についての動画を観た。過疎地域は高齢者の割合が増えていて働き手が減っているため、建物や道の修理、施設の運営などのための税金が十分に集まらず、生活が不便になっているという。この事を知って、どうにか過疎地域を支援できる方法はないのだろうかと思っ

ていたが、ふるさと納税を利用すれば支援ができるのではないだろうか。実際に新潟県の過疎状態である村上市で、保育園の運営、産業の支援、環境整備などにふるさと納税の寄付金が役立てられていた。

このような利点がある一方で、問題点もいくつかある。その一つは住民がふるさと納税を利用すると町のお金が寄付金として出ていくため、寄付をするほどその町のお金が減ってしまうことだ。また、返礼品は人気偏るため、たくさん寄付金が集まる自治体とあまり集まらない自治体とで差が出てしまう。

このように、ふるさと納税には利点もあるが、自分の町が損をする場合もあることや人気の偏りによって地方の格差が出てしまうという問題点もあることが分かった。ふるさと納税によって全ての町を活性化させられるとは限らないのである。

もし自分がこの制度を利用するとしたら、過疎化で困っている地域に寄付をして役立てたい。過疎地域を活性化させるためには、過疎化で困っている地域だということが一目で分かり、利用者にもっと知ってもらうための工夫をするとよいと思う。また、格差を減らすために例えば各自治体のふるさと納税によるお金の増減を分かりやすく確認できるようにするなど、偏りを減らす対策を行うべきだと思う。これらの問題が解決できれば多くの自治体の活性化につながり、利用者も納得して利用できる便利な制度になると思うので、今後も改良を進めていってほしい。

公益社団法人長岡法人会 会長賞

少子高齢化と所得の再分配

新潟大学附属長岡中学校

三年 村山 結菜

近年、「少子高齢化」という言葉を頻繁に耳にするようになった。私が在住している新潟県では、全国を上回るペースで少子高齢化が進んでいる。その結果、若年層の税負担が強いられている。

そこで、私たちに求められているのが相互協力であると思う。日本では、所得の不均衡を直すために累進課税制度を取っている。これにより、所得の高い人により多くの税金を負担してもらい、所得の格差を調節する所得の再分配を行っている。また、少子高齢化が進行している現代でも、世代を問わず一人ひとりが健康で文化的な社会を実現するために、消費税を設けている。これは、所得に関わらず、国民が同じ税率で税を負担する。そのため、景気や人口構成の変化に左右されにくく、高い財源調達力がある。

しかし、全ての労働者が同じ収入を得られる訳ではないため、必ず経済格差が生じてしまう。その結果、所得が多い人からは、前述にある累進課税制度に対する「なぜ努力して高

給を得ている人がより多くの税金を納める義務があるのか」といった不満が生まれる。これに対し、所得が少ない人からは、後述にある消費税に対する「収入は増えないのに、支払だけが增える」といった逆進性を巡る不満が生まれる。

では、なぜ日本は、累進課税制度、そして消費税による納税の体制を取っているのか。双方の立場からすると、意見は様々だと思う。しかし、私は、この体制が、結果の平等と社会保障の財源を安定して調達するという視点から考えると最もふさわしい体制だからだと思う。日本は、累進課税制度により、経済格差を鑑みた上で税金を負担してもらうことで、国の財政を賄っている。だが、近年は少子高齢化の進行が著しい。そのため、働き手の割合が減少し、税収入も減ってしまう。そこで、消費税を設けることで、働く世代など特定の人に負担が集中されないため、経済活動に中立的、且つ、安定的に高い財源調達を見込めるのである。だから、日本はこの体制を取っていると考える。

この時代を生きる私たちに求められることは、年々増加傾向にある社会保障費をどのように負担していくかを考え、高齢者に不自由な生活を営んでもらうために行動することだろう。新潟県は、全国有数の米の生産量を誇っている。この農業を支えている大半が高齢者に分類される農業従事者の方々である。私たちの生活に毎日恩恵をもたらしてくださる農業従事者の方々に感謝し、今後も活躍してもらうために、税の在り方を見つめ直し、国民全員が、納得できる世の中の実現に足を踏み入れたい。

長岡地区納税貯蓄組合連合会 会長賞 優秀

税金

長岡市立江陽中学校

三年 名古屋 明歩

私の祖父は難病を患っており、頻繁に医療機関を受診している。きつと医療費の支払いも高額なのだろうと思っていたが、祖父は「負担はそれほどでもない。医療費の助成があるからすごく助かる。」と話していた。私も先日、眼科と歯科を受診したが医療費の助成があり、自己負担は五百円ほどだった。受診したときの明細を見ると実際に医療機関に支払われる額のほんの一部を負担するだけで医療を受けられた。今まで医療費や税金についてあまり関心が無かったが、良い機会なので自分なりに医療費・社会保障費と税金について調べてみようと思った。

日本は国民皆保険制度になっており、医療を受けるときの自己負担は原則三割になっている。医療費の財源は、保険料から約五割、自己負担が一割、そして税金から四割ほどが充てられているという。毎年莫大な額が医療費に使われている。そのうちのかなりの割合が税金によって賄われていることになる。そして今後さらに少子高齢化が進み、医療費などの社会保障費が増えると言われている。そうなると受診時の自

己負担が増えて自由に医療機関を受診することができなくなるのではと心配になるが、一昨年税率が引き上げられた消費税はその引き上げ分のすべてが医療費を含む社会保障のために使われるそうである。

なぜ消費税が社会保障費に使われるかというと、消費税は物やサービスを購入する際、国民の誰もが負担するため、現役世代など特定の世代に負担が偏らず、国民全体で広く負担を分かち合うことができるからである。また、消費税は、景気などの変化に左右されにくいという特徴があるそうだ。国民の命や生活に直結する社会保障費が不景気になるときに財源が不足するような事態を避けられる。

税率引き上げ分で充当される社会保障費には待機児童の解消や幼児教育・保育の無償化・介護職員の処遇改善などがある。また私たちに直接関係がありそうなどころでは高等教育の無償化があり、低所得家庭の生徒に授業料減免・給付型奨学金支給を受けることができる。

消費税が増税になったとき、私は一万円のものを買うと千円も税金を払うのは正直嫌だな、と思っていた。しかし、増税分が社会保障費に全て充てられる事を知り、私たちが納めた税金が有効に使われていると実感することができた。また、今後の少子高齢化が進んでも社会保障制度を持続させるための安定した税収が消費税であることが理解できた。

中学生の私が納めることのできる唯一の税金である消費税。この税金を通してほんの僅かだが、社会を支える側の一員になれていると思う。

長岡地区納税貯蓄組合連合会 会長賞 優秀

税の大切さ

長岡市立大島中学校

三年 安川 明花音

私が税金と聞いて身近に感じていたものは消費税だけでした。税抜き価格が大きく書いてあり、お金が足りなくて困ったことがあるので税込み価格を大きく書いてほしいなと思っていました。そのくらいしか税に関して考えたことはありませんでした。

今回、私にとって身近な税金は他に何かあるだろうと調べてみました。すると、とてもたくさん種類の税金があつて驚きました。例えば、学校ではまず、校舎、教科書、それに給食などさまざまところで税金が使われています。税金があるから学校で学んだり、遊んだりできているのだということが分かりました。学校だけでなく、公園や図書館なども税金でつくられていることが分かりました。小さな頃のアルバムを見ると、公園で楽しそうに遊んでいる自分の写真がたくさんありました。幼稚園に入る前は毎週、図書館で絵本を読んでもらったり、手遊びをしてくれるお話し会に行っていたことを母から聞きました。私は小さかったので全部のことは

覚えていないけど、税金に支えられて成長したのだなと思いました。

そして、更に税の決算書をネットで調べてみると、国際交流にも税金が使われていることが分かりました。うちは、私が小学六年生の時にホームステイを受け入れたことがあります。ホノルルから来た高校生のお姉さんと二泊三日、一緒に過ごしました。英語は少しの単語しか知らなかったけど、とても仲良くなれました。好きなものや趣味の話をしたり歌と一緒に歌ったりして、あとはジェスチャーなどで気持ちを伝えることができたのでとても嬉しかったです。でも、英語が話せたらもっと色々な話ができると思ったので英語を勉強するのが楽しくなりました。このように勉強したい気持ちを大きくしてくれたことにも税金が関わっていることが分かり、驚きました。そこで、どのような人が税金を納めているのか調べてみました。主には働いている人が支払っていることが分かりました。そして、消費税や所得税や住民税も同じように誰かの役に立っているのと知り、嬉しく思いました。しかし、私がお店で払うお金は自分で働いて得たお金ではありません。今、税金によって支えられ、学べることに感謝し、たくさんこのことを経験して数年後には自分が働いたお金で納税して社会の役に立ちたいです。

税金について知ることが社会のしくみを知ることにつながると思います。税金とは皆が豊かな暮らしができるようにあるのだと思います。支えられ、支える、社会を繋ぐ大切な輪のようなものだと思います。

長岡地区納税貯蓄組合連合会 会長賞 優秀

私たちができること

長岡市立三島中学校

三年 山田 楓

皆さんは、税金が何に使われて、未来にどうつながるのか考えたことがありますか。税金は、物を買う時の消費税や、土地を所有している際にかかる固定資産税などで私たちは一生で多くの金額を払うこととなります。

その使い道にも、様々なものがあります。例えば、ごみの処理や災害の復興支援などに使われています。これらは、目に見えてすぐに効果のあるものです。対して、すぐには効果がありませんが、とても大切な使い道の一つに教育があります。

公立学校に通う生徒は、一年間あたりに、一番少額の小学生でも約八十万円かかるといわれ、一番多額の中学生は、約百万円もかかるといわれています。この他に、校舎の維持や建設、教科書代を合わせたら、学校で勉強をするためには、とても多くのお金がかかることが分かります。ここで使用されるのが税金です。

まず、年に一度配布される教科書は、無償で提供されています。一度で何教科も配られるので、とても大きな金額になります。無償配布の費用として、新潟県では年に四六三億円が使われます。

次に、校舎などの建設や修理などにも、この税金が使用されています。私たちの学校には少し前にエアコンが付き、最近では学習のためのタブレットが設置されました。私たちが快適に勉強するため、年に七七三億円が使用されています。

ここから分かるように、私たちが学校で勉強するために、大変多くの税金が使われています。私達は、この大きな支援に対して、どのようなことができるでしょうか。

配布された教科書の裏に、このような記載があります。「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。」というものです。

これからの日本は、私たちが担っていきます。私たちには、これからの未来につなげていくための勉強をひたむきに行うことが今できる最大の恩返しだと思います。そして、大人になったとき、社会の一員として学んだことを生かして、次の世代のために税で応援することが必要だと思います。こうして、未来へバトンをつなげることが、税金を通して明るい未来をつくることだと思います。

まだ私は中学生で、税金を通じた応援をうけています。いつかそれを返せるように、日々学校生活に全力で取り組んでいきたいです。